

一 次の文章を読み、各問いに答えなさい。

「やらなきゃいけないこと」が^①ひて的に感じられるとしたら、それも個性尊重のまやかしです。やらなきゃいけないことをやっても、個性は伸びない。そう思うから、自分の好きなことをやりたがる。でも、「型」なんてやらなきゃいけないことの連続です。やらなきゃいけないことをやり続けると、型が身につく。何かが身についたら、自分が変わります。身体が個性なんですから、当たり前です。仏教の修行もそうです。^{*}比叡山の「千日回峰行」というものがあります。比叡山の山中を千日、ただひたすら走り回る。それを終えると、「^{*}大阿闍梨」という称号がもらえます。マラソンの選手じゃないんだから、お坊さんが山を走り回ったところで、^①一文にもなりません。誰に頼まれたわけでもなし、そんなことをしても、何の意味もない。じゃあ、なんでそんなことをするのか。

走り回ったあげくの果てに、本人が変わります。修行の後にできあがる唯一の作品が、大阿闍梨本人なのです。修行を^②むえきだと思う人は、そこを忘れていきます。芸術家なら作品ができるし、大工なら家が建ち、農民なら米がとれる。しかしお坊さんはそのどれでもありません。それなら何をするのかと言えば、「自分を創る」のです。比叡山を走り回ったら、自分を創ることができるのか。そんなことはわかりません。でも本人にしてみれば、千日回峰行はやらなければいけないからやる。それこそ先に生まれた人がずっとやってきた、その伝統に巻き込まれてやってみるのです。

千日回峰行をする前と後で、本人がどこかしら変わる。それだけのことで、人生とは「それだけのこと」に満ちています。私は三十年、解剖をやりましたが、それも「それだけのこと」です。「それだけのこと」を続けていくと、自分が変わる。そうやって変わる自分を創っていく。自分とは「創る」ものであって、「探す」ものではありません。それが大した作品にならなくなったって、仕方ない。そもそも誰が「大した作品」かどうかを判断するんでしょうか。そんなこと、神様にしかわかるはずがありません。

それがわかったら、個性とか、本当の自分とか、自分に合った仕事とか、つまらないことは考えないほうがいい。どんな作品になるかはわからなくても、ともかくできそうな自分を「創ってみる」し、ありません。そのために大切なことは、身体の世界や感覚の世界、つまり具体的な世界を身をもって知ることである。そこで怠けると、後が続きます。

時々、知らない世界を見ることが、^②未知との遭遇だと思っっている人を見かけます。コロナ前には、外国に「自分探し」に行く人もいました。日本が^{*}既知で、外国が未知なのではありません。「自分は同じ」と思っているから、日本にいるとなんでも同じに見えてしまう。それで「^③退屈だ」とこぼすのです。

でも、自分は同じだと思っっている人が外国に出かけても、大した未知との遭遇はできません。そのくらいなら、何も考えずに出かけていったほうがいい。知らない環境に入れば、自分が変わらざるを得ませんから。

「変わった」自分はいままでとは「違った」世界を見ます。自分が変われば、世界全体が微妙にずれて見える。大げさに言うなら、世界全体が違ってくる。だから「面白い」のです。つまり「未知との遭遇」とは、新しい自分との遭遇であって、未知の環境との遭遇ではありません。新しい自分との遭遇は、自分探しではありません。そこを誤解すると、見知らぬ場所、^{*}確固とした自分を見つけようと無理をすることになります。

自分を創りたかったら、自分で自分を変えればいい。それは別に外国じゃなくたってできることです。どこにいたって、新しい自分

と出会って楽しむことができる。

なぜ「私は私、同じ私」でなきゃならないのか。そんな「私」なんか、どこかに捨ててしまったほうが楽ちんです。

(養老三益司『ものがわかるといふこと』による)

*比叡山……京都府と滋賀県にまたがる山。天台宗の総本山、延暦寺がある。
*大阿闍梨……厳しい修行を積んでその道の最高位に達した僧侶に与えられる称号。
*文……江戸時代のお金の単位。
*既知……すでに知っていること。

問一 —— 線部④、⑤のひらがなを漢字に直して書きなさい。

問二 —— 線部①「一文にもなりません」の意味に当たる語句を、本文中から五字以上十字以内で抜き出して書きなさい。

問三 —— 線部②「未知との遭遇」とは、「Ⅰ」Ⅰとの遭遇ではなく、「Ⅱ」Ⅱとの遭遇である。」とまとめられる。この文の空らんⅠ・Ⅱに当てはまる語句を、本文中からそれぞれ五字で抜き出して書きなさい。

問四 —— 線部③「自分探し」とは何をすることか、本文中の語句を用いて、十字以上十五字以内で書きなさい。

問五 本文の内容として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 自分を作品として創っていったとき、誰がそれを評価してくれるのかということは、重大な問題である。
- イ できそうな自分を「創る」ときには、「個性」や「本当の自分」を重視しなければならない。
- ウ お坊さんが千日回峰行に取り組むのは、厳しい修行を行うことで評価された結果、大阿闍梨になれるからである。
- エ 知らない環境に入っって自分が変わること、新しい自分に出会うことができる。

問六 —— 線部「自分とは『創る』ものであって、『探す』ものではありません。」とあるが、「A」とは「B」であって「C」ではない。」という題名で、次の三つの条件に従って作文しなさい。

条件一	A	〜	C	にそれぞれ言葉をあてはめ、作文の内容をあらわす題名を書きなさい。
条件二	原稿用紙の使い方に従って、百二十字以上百五十字以内で、二段落構成で書きなさい。ただし、原稿用紙内に題名と名前は書かないこと。			
条件三	第一段落には、題名に関するあなたの経験を書き、第二段落には、第一段落に書いた内容をふまえて、あなたが考えたことを書きなさい。			

二 はじめさんとさくらさんは、2025年に開催された大阪・関西万博について探究しています。各問いに答えなさい。

問一 はじめさんは、1970年にも大阪で万博が開催されたことを知り、その万博に行った人にインタビュー調査を行いました。インタビュー記録を読み、各問いに答えなさい。

1970年の大阪万博に行った人の話
万博に行った時の興奮は、今でも鮮明に覚えています。
万博のテーマは「人類の進歩と調和」。当時は①高度経済成長と言われた時代で、私は小学生でしたが、社会に活気があった印象があります。万博で印象に残っているのは、太陽の塔です。太陽の塔は外から三つの顔を見ることができ、②背面の黒い太陽は過去を、正面の太陽の顔は現在を、頂部の黄金の顔は③輝かしい未来を象徴しているそうです。



(一) 線部①について、1970年当時の社会の様子についての説明として誤りのあるものを、次のア～エから二つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 東海道新幹線を利用して東京と大阪の間の移動が盛んに行われていた。
- イ 阪神・淡路大震災が発生し、大きな被害を受けた兵庫県神戸市を中心に、復興に向かっていった。
- ウ 電気洗たく機や電気冷蔵庫などの家庭電化製品が普及し、生活が豊かになった一方で、深刻な公害問題が起きていた。
- エ 日中平和友好条約が結ばれた際に、中国から贈られたパンダが日本で人気となっていた。

(二) 線部②について、はじめさんは戦争の歴史が関係していると考え、まとめました。文中の空らんA、Bにあてはまる言葉をそれぞれ書きなさい。

19世紀から20世紀にかけて、欧米諸国は新たな資源や市場を求めてアジアやアフリカの各国に進出し、(A)として支配しました。(A)や資源をめぐる対立は二つの世界大戦につながりました。第二次世界大戦では、1945年8月に広島と(B)に原子爆弾が投下され、多くの犠牲者が出ました。

(三) 線部③について、世界の平和やよりよい地球環境を維持するための取り組みについての説明として誤りのあるものを、次のア～エから二つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 国際連合は、世界の平和と安全を守り、人々の暮らしをよりよいものにするために、1945年に発足した。
- イ SDGsは、持続可能な社会を実現するための2050年までの行動計画の中心として、2015年に国連で合意された。
- ウ 日本政府は、社会環境が十分に整備されていない国に対し、NGOの活動で資金や技術を提供している。
- エ 青年海外協力隊は、アジアやアフリカなどの発展途上の国や地域で、知識や技術を生かし活躍している。

問二 はじめさんとさくらさんは、2025年の万博の名前が「大阪・関西万博」であるのは、大阪を中心とした関西の一体感を示すためではないかと考え、関西の結びつきについて調べ、話し合いました。会話文や資料を読み、各問いに答えなさい。

はじめ 昼間と夜間の人口の差を表す指標として、昼夜間人口比率があり、【資料1】のように求めます。また、【資

料2】は都道府県別に見た、昼夜間人口比率の上位と下位5都府県を示したものです。【資料1】と【資料2】から、私たちが住む奈良県は(C)人口が(D)人口を上回ることがわかります。

さくら 奈良県内の状況をもう少し詳しく考えてみましょう。いくつか参考にできそうな資料があります。【資料3】は奈良県の県外就業率が高い市町村上位5つです。【資料4】は奈良県内の主な鉄道路線図です。この3つの資料から他府県とのつながりが見えてきますね。

はじめ 小学校では、奈良県をふくむ地域を(E)地方と学習しました。一方、2025年の万博は「大阪・関西万博」と言われています。関西には三重県がふくまれないことも多いそうです。

帯は、三重県や愛知県等にもまたがっています。そのため三重県は、中部地方との結びつきが強いと考えられています。

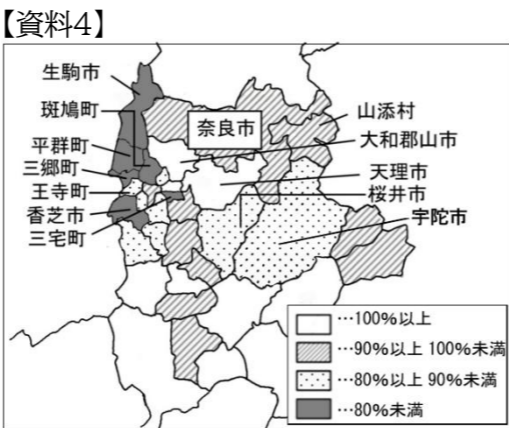
【資料1】
昼夜間人口比率
=(昼間人口÷夜間人口)×100

【資料2】

都道府県名	昼夜間人口比率
1 東京	119.2
2 大阪	104.4
3 京都	102.0
4 愛知	101.3
5 佐賀	100.7
⋮	⋮
43 兵庫	95.3
44 神奈川	89.9
45 奈良	90.2
46 千葉	88.3
47 埼玉	87.6

【資料3】

市町村名	
1 生駒市	
2 王寺町	
3 三郷町	
4 香芝市	
5 平群町	



【資料5】
この部分については著作権により公表できません

(総務省統計局「国勢調査(令和2年)」、「白地図専門店」、「鉄道路線図を作成するサイト」より作成)

(一) 空らんC、Dにあてはまる言葉を、会話文からそれぞれ二文字で抜き出して書きなさい。また、空らんE、Fには、当てはまる言葉をそれぞれ書きなさい。

(二) 会話文や資料の内容と一致するものを、次のア～オから二つ選び、その記号を書きなさい。
ア 昼夜間人口比率下位5県は、上位5都府県のいずれかと隣り合っている。
イ 奈良県北部地域の昼夜間人口比率80%未満の市町村はすべて大阪府と隣り合っている。
ウ 奈良県の県外就業率が高い市町村上位5つにはすべて鉄

道が通っており、昼夜間人口比率は90%未満である。
エ 大阪府と三重県を結ぶ路線上の市町村はすべて昼夜間人口比率が90%未満である。
オ 奈良市と隣り合う市町村にはすべて鉄道が通っており、昼夜間人口比率は100%未満である。

三 次の文章を読み、各問いに答えなさい。

東海の王者、徳川家康が屈したいま、秀吉には、もはやおそれる相手はいなかった。

天正十五年(一五八七年)三月に、二十万の大軍をひきいて、秀吉は九州*征伐に出陣した。

相手は、薩摩から各地に進攻し、九州全体を手に入れようとしていた島津義久だった。島津は、秀吉の大軍におどろき、五月に降伏した。

秀吉は、島津をほろぼすことなく、薩摩をあたえた。これで、九州全土は秀吉の支配するところとなった。

九州から大阪に帰った秀吉は、京都・北野で、大茶会を計画した。それは、茶の湯を愛する者なら、農民、商人、職人、僧侶などの身分をいっさい問わず、さらには唐や南蛮の者でも、国せきを問わず、だれでも参加し、*千利休や秀吉のたてる茶がのめるといふものだった。

そして九月に、けんらんたる黄金でいろどられた桃山文化の*精髓ともいふべき*聚楽第を完成させた秀吉は、十月一日、北野天満宮で大茶の湯をもよおした。

「なんと、豪気なことよ。」

「関白さまは、たいしたお方じゃ。」

「だれでも茶がのめるとは。」

「信じられぬのう。」

その日、北野天満宮には入りきれないほどの大勢の庶民たちがあつまった。そして、空前のにぎわいのなか、おのおのが利休や*津田宗及、*今井宗久、秀吉らのたてる茶をのんで、のちの語り草としたのであった。

あくる天正十六年、秀吉は、農民や漁民に一揆や乱をおこさせないように「②」と「*海賊停止令」を發布した。

つぎの年、天正十七年の五月、秀吉にとって、待望の子が生まれた。お市の方の長女であり、茶々とよばれた淀君が、ついに秀吉にとって、はじめての子、それも男子を生んだのである。

秀吉は歓喜した。

「あとつぎじゃ。そなたこそは豊臣のあとつぎじゃ。」鶴松と名づけた赤子に、秀吉はほおずりしながら、いった。「そなたのために、日本全国をさつさと平定してしまおうぞ。のう、鶴松。」

その年の十一月、秀吉は関東の雄、北条氏を征伐することをきめた。

北条には、いくども*上洛をうながしていた。だが、北条はそれをこぼみつづけた。*早雲以来、五代にわたってつづいた北条家は、関東八か国、三百万石を領地とする大大名であった。

「なんの、秀吉など。」

「なりあがり者が。」

北条氏政、氏直親子にしてみれば、農民あがりの秀吉など、たいしたことはないとからんじたのだ。たとえ攻めてきたとしても、小田原城は天下の*堅城であり、ゆるぎもしないと、③たかをくくっていたのである。

「そうか。上洛せぬか。」秀吉は怒った。「ならば、しかたあるまい。」秀吉は小田原*討伐をきめた。よほどのことがないかぎり、秀吉は征服した相手をゆるしてやり、その土地を*安堵してやることがほとんどだった。だが、北条の場合はちがった。かつて家康と同盟をむすんでいた北条は、もしものこせば、やっかいなことになる。

「北条はつぶすしかあるまいな。」

そう決意した秀吉は、家康はじめ、全国の諸大名に命じて、関東へ

出陣させた。

天正十八年(一五九〇年)の三月、秀吉は京都聚楽第を出陣した。そして十万の大軍をひきいて、北条氏の各地の城をひとつずつ攻めつぶしていき、石垣山に布陣し、北条家の本城である小田原城をとりかこんだ。

戦にそなえて、一年分の弾薬や*兵糧を城内にたくわえてきた小田原城の兵たちは、はじめは秀吉軍などおそれることはない、意気さかんだったが、秀吉とくいの土木工事で、まわりにつきつぎと新しい城や砦がぎすずかれていくのを見て、動揺はじめた。さらには十万の兵の需要をみたすために、陣地のまわりに、全国の商人があつまり、活気のある町のにぎわいが生まれたことに、目を見はつた。

「なんとということだ。」

「これが、戦か。」

「うわさには聞いていたが、④秀吉の戦とは、ことういものか。」

小田原城が*籠城するなかで、秀吉は、石垣山城で、ひきつれてきた武将たちとともに、ゆうゆうと茶をたて、うたげをもよおし、謡や舞を鑑賞した。さらに、城内に⑤調略の手を入れて、内部からつきずそうとした。

六月、それまで何度も小田原に参戦するようにうながされていたにもかかわらず、なかなか出陣しようとしなかった奥州の伊達政宗が、ようやく秀吉のもとにやってきた。

「きたか、政宗。」

秀吉はすぐには会わず、山中にとどめおいた。そして、二日後、よびつけた。

(おくれたことを理由に、殺されるかもしれない。そのときは、刺しちがえてやる。)

政宗はふところに短刀を忍ばせ、髪を*水引でおおい、死に装束で、秀吉との対面にのぞんだ。その場には、徳川家康や前田利家ら、そうそうたる大名たちがひかえていた。

「こなたへ、こなたへ。」

秀吉は政宗を手でまねいた。おそろおそろ前に進みでると、秀吉は手にもっていた扇子で、政宗の首をほんぽんとたたいて、笑いながらいった。

「さて、そなたは愛いやつじや。よい時分に来たのう。いま少し遅きたら、ここがあぶなかつたぞ。」

政宗は、⑥、ひれふした。

このとき秀吉は五十四歳、政宗は二十三歳の若さであった。秀吉は、政宗をゆるし、その領地七十余万石を安堵するかわりに、奥州を征する先兵となるように申しつけた。

(天下統一のためには、政宗の力がある。)

秀吉はそう考えたのだ。

(小沢章友『豊臣秀吉 天下の夢』による 出題のため一部改編)

*征伐 …… はむかう者を攻め討つこと。

*千利休 …… 茶の湯を大成させた人。

*精髓 …… いちばん優れた大切なところ。

*聚楽第 …… 秀吉が京都に作った屋しき。

*津田宗及 …… 千利休と並ぶ茶人。

*今井宗久 …… 千利休と並ぶ茶人。

*海賊停止令 …… 秀吉が發布した海賊の活動を禁止する法令。

*上洛 …… 京都に行くこと。

*早雲 …… 北条氏の初代。

*堅城 …… 簡単には落とせない強固な城。

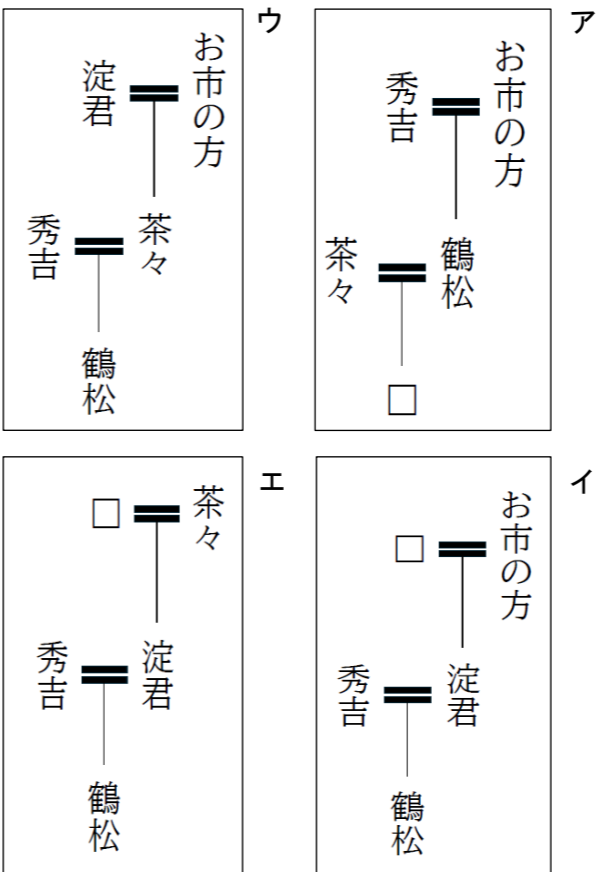
*討伐 …… はむかう者を攻め討つこと。

- *安堵する …… 土地の支配権や所有権を認めること。
- *兵糧 …… 戦場で将兵に支給される食糧。
- *籠城 …… 城にたてこもること。
- *水引 …… 日本の伝統的な飾り結び。

問一 ——— 線部①「だれでも」とは、どういうことを表しているか。本文中の言葉を使って二十字以内で書きなさい。

問二 ——— ②にあてはまる百姓ひゃくしょうに一揆いげつや乱らんを起こさせないために秀吉が発布した法令を書きなさい。

問三 登場人物の関係を表した図として適切なものを次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。



問四 ——— 線部③「たかをくくっていた」とあるが、この時の北条軍の様子を「北条軍は」に続く形になるように二十字以上二十五字以内で抜き出して書きなさい。

問五 ——— 線部④「秀吉の戦とは、こういうものか」とあるが、この言葉からわかる兵士の感じたこととして最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 見たことのない秀吉の戦い方に、驚き、感心している。
- イ 商人まで利用した秀吉の戦い方を軽べつしている。
- ウ うわさに聞いていた秀吉の戦いを見て喜んでいる。
- エ 秀吉の戦いは、たいしたことないと安心してている。

問六 ——— 線部⑤「調略」が示している秀吉軍の行動として、最も適切なものを次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 城を破壊するために、どこに弾薬を仕掛けるか調べる。
- イ 敵方の戦略を調べ上げて、必要な武器をそろえる。
- ウ 城に兵を送り込んで、秀吉軍の侵入路を探す。
- エ 敵方の人間を説得し、味方に誘い入れる。

問七 ——— ⑥にあてはまる最も適切なものを次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア かつとして
- イ ぞつとして
- ウ はつとして
- エ むつとして

問八 天下統一を進めた織田信長・豊臣秀吉・徳川家康について表にまとめたとき、表中の空らんA・B・Cにあてはまる言葉を書きなさい。

人物	城	主な政策	外国との関係
織田信長	安土城	力をもっていた (A) 教勢力を力でおさえた。	(B) 教を保護した。
豊臣秀吉	大阪城	ものさしの長さや、ますの大きさを統一した。	(C) に二度にわたって軍を送った。
徳川家康	江戸城	全国の大名の配置を工夫し、支配の基礎を築いた。	(C) に使者を送り、交流を再開した。